

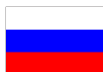
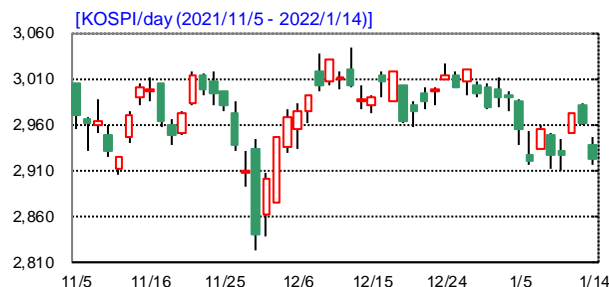


【韓国】 総合指数は週間で 1.1%安と 4 週続落、今週は軟調か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.1%安と 4 週続落。週を通じて金融緩和の縮小を見込んだ売りが重荷だった。米連邦準備理事会（FRB）による利上げが想定より早まるとの見方が広がり、週明け 10 日は反落。11 日は小幅に反発し、12 日はパウエル FRB 議長がさほどタカ派ではない姿勢を示したことを受けて続伸した。しかし 13 日は韓国での新型コロナウイルス「オミクロン株」の感染拡大が嫌気されて反落。14 日は前日に米ナスダック総合指数が 4 営業日ぶりに反落したことが嫌気されて続落し、終値ベースで 6 日以来 6 営業日ぶりの安値を付けた。今週は軟調な展開か。韓国銀行（中央銀行）は 14 日の会合で政策金利を 1.25%に引き上げ、新型コロナの世界的流行前の水準に戻しており、利上げがハイテク株の売りにつながりそうだ。

▼指数チャート

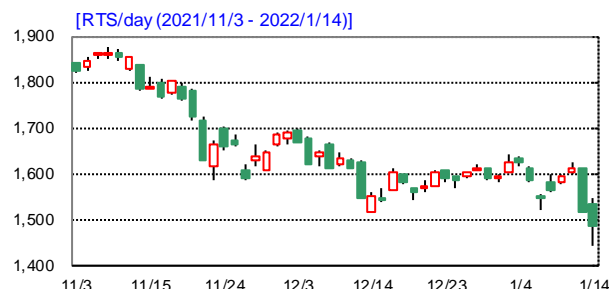


【ロシア】 RTS 指数は 3.8%安と大幅続落、今週も地政学リスクが相場の重しか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 3.8%安と大幅続落。ウクライナを巡る地政学リスクの高まりを受けて週後半に急落した。指数は原油高を追い風に週半ばまで堅調に推移したが、13 日に前日比 5.9%安と急落。ウクライナ情勢を巡るロシアと米欧側との対話が不調に終わったことで地政学リスクが意識された。14 日も欧米株安が重しとなり、指数は 2.1%安と続落した。ルーブルが対ドルで 1.0%下落したことも米ドル建ての指数の重しとなった。個別銘柄はエネルギーのロスネフチ、タトネフチが小幅に上昇した一方、ズベルバンク・オブ・ロシアが 11.2%安、TCS グループ・ホールディングが 5.0%安と金融株が大幅安となり、産金のポリュスとエネルギーのガスプロムは 3%前後の下落となった。今週も地政学リスクが相場の重しか。

▼指数チャート

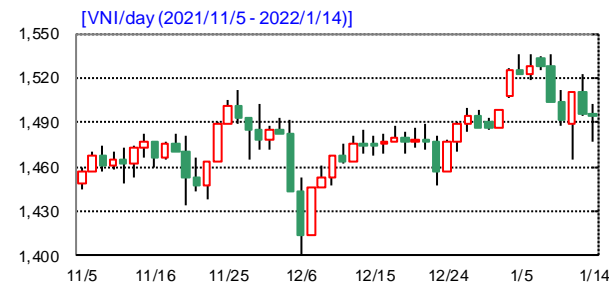


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で 2.1%安と 3 週ぶりに反落、今週はもみ合いか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 2.1%安と 3 週ぶりに反落。高値警戒感が強まる中、海外投資家の売りが重しとなった。週明け 10 日は前週末比 1.6%安と軟調。前週までの最高値更新で高値警戒感が強まる中、海外投資家が売り越したことで主力銘柄の大半が下落した。指数は 11 日も 0.8%安と続落。12 日は押し目買いが強まり、1.2%高と反発したが、13 日は再び 1.0%安と売られ、14 日は横ばいで終了した。個別では金融のベトナム投資開発銀行が 12.9%高、ベトインバンクが 6.8%高となった一方、公益のペトロベトナム電力総公社が 12.2%安、ゴム製品のベトナム・ラバーが 7.3%安、食品加工のマサン・グループが 6.0%安。不動産のノー・パー・ランドが 5.1%、ビンホームズが 3.7%、ビングループが 3.2%下落した。今週はもみ合いか。

▼指数チャート



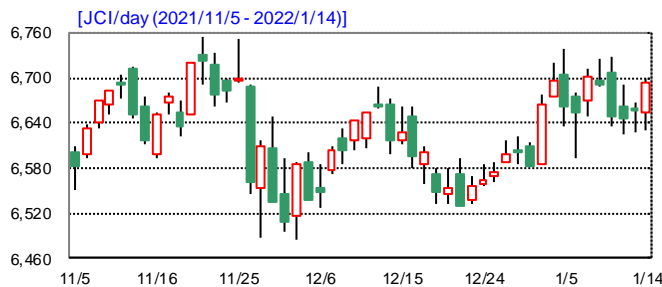


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.1%安、今週は 6700 ポイント回復に期待

ジャカルタ総合指数は週間で 0.1%安と 3 週ぶりに反落。週後半に買い戻されたが補えなかった。週初の 10 日に反落すると、11 日は 21 年 11 月の小売売上高が前年同月比 10.8%増と 2 カ月連続で前年の水準を上回ったものの買い材料視されず、指数は続落。12 日は前日からほぼ横ばいで推移した後、13 日は今月 1 日に導入された石炭の輸出禁止措置が一部緩和され、関連株が上昇した効果などで 4 日ぶりに反発した。14 日は続伸して引けている。今週は 17 日の 21 年 12 月の貿易統計発表に続き、20 日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。内容次第で 6700 ポイント台を回復するかが注目される。

▼指数チャート

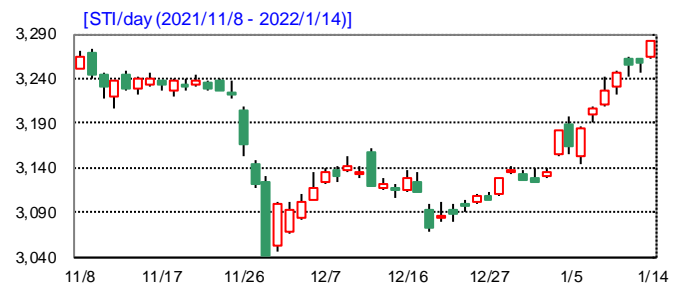


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 2.4%高、前週後半から 7 営業日続伸

ストレーツタイムズ指数は週間で 2.4%高と 3 週続伸。前週後半から 7 営業日続伸と好調だった。週初の 10 日は銀行株が指数上昇をけん引。11 日はオーストラリアで保有する光ファイバー資産を売却する可能性が報じられた通信大手のシングルが買われた。12 日はパウエル FRB 議長の証言を受けて、急速な金融引き締めへの警戒感が後退した効果で上昇。13 日も小幅に上値を広げると、14 日は終値で 19 年 11 月以来の高値を更新して取引を終えた。今週は 17 日発表の 21 年 12 月の非石油地場輸出に対する市場の反応が焦点。外部要因では、中国の 10 - 12 月の GDP や 12 月の鉱工業生産が指数を左右しそうだ。

▼指数チャート

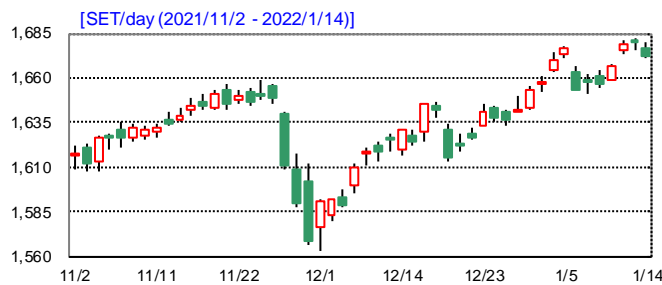


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.9%高、今週は 21 日に 21 年 12 月の貿易統計発表

SET 指数は週間で 0.9%高。週末の下落が上昇幅を縮めた。週初の 10 日は方向感に乏しく、前週末からほぼ横ばい。ただ、11 日に上昇すると、12 日は前日に世界銀行が今年の世界全体とタイの経済成長率の見通しを下方修正したものの影響は軽微で、指数は続伸した。13 日は米国の 21 年 12 月の CPI が市場の想定内だったことなどが買い材料となり、小幅に上値を広げたが、14 日は米国の利上げが 3 月に開始されるとの見方が強まった影響で売られ、4 日ぶりに反落して取引を終えている。今週は 21 日に 12 月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定で、前年同月比の輸出入額はともに 2 桁増になる見通し。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.8%高、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

クアラルンプール総合指数は週間で 0.8%高と反発。おおむね堅調な値動きだった。週初の 10 日は 21 年 11 月の鉱工業生産が前年同月比 9.4%増と市場予想から上振れしたことなどが好感されて続伸。11 日は金融株の一角が指数上昇をけん引した。12 日は 4 営業日ぶりに小幅反落したが、13 日はペトロナス・ケミカルズ・グループなどの大型株が買われて反発。ただ、14 日は利益確定売りで反落して取引を終えた。今週は 20 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催するほか、21 日には 12 月の CPI が発表される予定で、前年同月比の CPI 上昇率は 3%台になる見通し。18 日はタイプーサムの祝日で休場となる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。